

# 小学校【音楽】

## 1. 学習指導要領改訂のポイント

### (1) 目標の改善

#### ①教科の目標の改善

#### 【現行】

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

#### 【改訂】

表現及び鑑賞の活動を通して、**音楽的な見方・考え方**を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

＜知識・技能＞

(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

＜思考力・判断力・表現力等＞

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

＜学びに向かう力・人間性等＞

- 新学習指導要領では、「知識・及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力別に目標や内容を整理して示すこととしている。

#### 「音楽科の見方・考え方」は

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること

「**音楽的な見方・考え方**」は、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核を成すものである。

児童が、自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などとを関連づけて考えているとき、**音楽的な見方・考え方**が働いている。

「**音楽的な見方・考え方**」を働かせて学習することによって、児童の発達の段階の応じ「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が実現していく。このことによって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力は育成される。

#### 「生活や社会の中の音や音楽と音楽文化と豊かに関わる資質・能力」は

(1)「知識及び技能」(2)「思考力・判断力・表現力等」(3)「学びに向かう力、人間性等」の視点から育成されることになる。

ここでは、音楽科の学習を通して育成を目指す資質・能力を、「**生活や社会の中の音や音楽と**

豊かに関わる資質・能力」と示すことによって、生徒が教科としての音楽を学ぶ意味を明確にしている。

「生活や社会の中の音や音楽と音楽文化と豊かに関わる資質・能力」を育成するためには、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生が自覚できるようにしていくことが大切である。その際、音楽科の学習が、その後の学習や生活とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかといったことに児童が意識をむけることのできる場面を、指導の過程に適切に位置付けることなどの工夫が必要である。

②学年の目標の改善

【現行】

- (1) 音楽活動に対する興味・関心、意欲を高め、音楽を生活に生かそうとする態度、習慣を育てること
- (2) 基礎的な表現の能力を育てること
- (3) 基礎的な鑑賞の能力を育てること

【改訂】

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

3つの柱で整理された

(2) 内容構成の改善

【現行】

A「表現」

- (1) 歌唱 (2) 器楽 (3) 音楽づくり
- (4) 表現教材

ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲

イ 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲

ウ 共通教材

B「鑑賞」

- (1) 鑑賞 (2) 鑑賞教材

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴きとることとその働きを感じ取ること

イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解すること

【改訂】

「A 表現」

- (1) 歌唱 (2) 器楽 (3) 音楽づくり
- ア 「思考力・判断力・表現力等」
- イ 「知識」 ウ 「技能」

「B 鑑賞」

- ア 「思考力・判断力・表現力等」
- イ 「知識」

〔共通事項〕

・「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴きとることとその働きを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること 「思考力・判断力・表現力等」

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること 「知識」

内容の取扱い

(1) 歌唱教材

ア 主となる歌唱教材については、学年ともイの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱＜簡単な合唱＞で歌う曲

イ 共通教材

指導すべき内容が一層明確化になった

**(3) 学習内容・学習指導の改善・充実****① 「知識」及び「技能」に関する指導内容の明確化****「知識」に関する指導内容**

- ・曲想と音楽の構造との関わりなどを理解することに関する具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくり・鑑賞の領域や分野ごとに事項として示した。

**「技能」に関する指導内容**

- ・思いや意図に合った表現などをするために必要な具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくりの分野ごとに事項として示す。そのことによって、音楽科の技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすべき内容であることを明確にした。

**② 〔共通事項〕の指導内容の改善**

- ・アの事項を「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イの事項を「知識」に関する資質・能力として示した。

**③ 言語活動の充実**



- ・他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを考えたりしていく学習の充実を図る観点から、「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること」を「A 表現」及び「B 表現」の指導に当たっての配慮事項として示した

**④ 「我が国や郷土の音楽」に関する学習の充実**

- ・これまでに第5学年第6学年において取り上げる旋律楽器として例示していた和楽器を、第3学年及び第4学年にも新たに位置付ける（小）【第3の2（5）ウ】
- ・我が国や郷土の音楽の指導に当たっての配慮事項として、「音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること」を新たに示した（小）【第3の2（3）】

## 2. 授業づくりのポイント

### 【一時間の授業の流れ】

学 習 活 動	
導 入	<p>○前時までの児童のレディネスに応じた目標を設定、それを適切に評価できる規準を設定する。</p> <p>○目標とまとめに整合しためあてを設定する。</p> <p>○本時の目標を確認し、学習の見通しを持たせる</p> <p>○教師は、本時の授業終了時に望ましく変容した姿を想定する。</p>
展 開	<p>○目指す力が身に付く活動とそれを適切に評価する場面を設定する。 ＜見方・考え方を働かせる場＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① 音楽を形づくっている要素（リズム・速度・強弱）の特徴を、児童一人一人に感じ取らせる → [共通事項] を聴き取り（知覚）・感じ取らせる（感受）</p> <p>★①を実現させるためには、まず、一人一人が音楽を形づくっている要素を確実に聴き取り、感じ取る学習の場の設定が必要である。</p> <p>② その感じ取ったこと [①] を、手がかりに、試行錯誤しながら、表現を工夫させる</p> </div> <p>例① この部分は、8分音符が連続したリズムが多く、速度はJ=80</p> <p>例② 8分音符が連続する部分は、その前の2分音符が多く出てくる部分と比べると、生き生きとした感じがする。 J=80のところは、その前にJ=120のところがあるので、落ち着いた気持ちになる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・「<u>何ができるようになるか</u>」・・・子供たちに必要な資質・能力を育成するため</p> <p>・「<u>何を学ぶか</u>」という学習内容、「<u>どのように学ぶか</u>」という指導過程を組み立てていく授業改善が重要</p> </div>
ま と め	<p>○児童は「望ましく変容した姿」で想定した通りのまとめ・振り返りをしたか見届ける</p> <p>○児童は期待通り変容したか見届ける</p>

＜授業の例＞茶色の小びん

めあて

「楽しい感じ」になるように、どのような工夫をすればよいだろう

主体的な学びの視点（手立て）

- ・全体の模範演奏と自分たちのパートだけが入っていない演奏の聴き比べる
- パートが曲全体に与える影響・必要性について、思いや考えをもたせる
- 表現したいと思うような「しかけ」
- 思考を促す教師の「働きかけ」

発問

主旋律・伴奏・低音がないと、どんな感じになるだろう

対話的な学びの視点

- ・互いに気付いたこと・感じ取ったことについて交流
- 伴奏がないとリズムにのれない
- 主旋律がないと、何の曲かわからない
- ・音楽的な特徴について共有
- 音を短く切ってみよう。リズム感が出るな
- ♪♪ ♪♪は、弾むようにしよう
- あまりゆっくりしすぎないようにしよう

発問

どのように演奏すれば、「楽しい感じ」になるだろう

深い学びの視点

- ・「音楽的な見方・考え方」を働かせる〔共通事項〕
- ・既習の学習と新しい学習を関連付ける
- 音楽を形づくっている要素の活用経験の蓄積
- ・すべてのパートが重要な役割をもっている

理解していること・できることをどう使うか

気付き

リコーダーパートは、長い音符が並んでいるので、主旋律の楽しくはずんでいた感じとは反対に、なめらかに演奏して主旋律を引き出そう  
**思い・意図**

友達と学んで、主旋律は、「♪♪ ♪♪」のリズムが多く出てくることに気付いた。だから、楽しい感じを出すために、はずんで演奏したいな。  
**思い・意図**

子供の変容

オルガンは音が大きいから、主旋律が聞こえるように音量を調節してひこう  
**技術**

まとめ

- ・この曲を聴いて、このように感じ、こう考える
- ・友達と学習して、こんなことに気付いた
- ・だから、この曲はこんなふうに表現（歌い・演奏）する

発問

「楽しい感じ」の演奏にするためにどんな工夫をしたか